

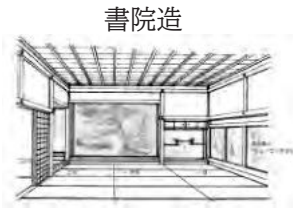
臨春閣

数寄屋装飾の見どころ

臨春閣は「数寄屋風書院」とされ、「書院」としての格式と定型を持ちながら、「数寄」すなわちデザインや素材に「好み」を取り入れた建築様式です。品がありながらも遊び心が盛りこまれた、オシャレな空間となっています。

格式ある表向きの様式

真



書院造

数寄屋風書院造



数寄屋造/茶室



行

↑ 中間 ↓

草

くずした風雅な様式

てんがく
天楽の間

やすのぶ
狩野安信「四季山水図」

きり まさめ
竹の皮の戸 / 桐の柱目の戸

階段下の物入れの扉、上部は竹の皮を用いた戸、下部は桐の柱目板を鏡板として用いた戸。

かとう
花頭型の階段入口

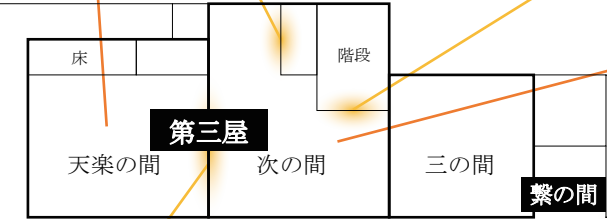
かとうまど
禅宗建築で用いられる「花頭窓」の形をデザインとして流用。

次の間

うんたくとうえつ
雲澤等悦「山水図」

つなぎ
繋の間

さんらく いたえ じゆうにし ずかく
伝狩野山楽「板絵十二支図額」



欄間の楽器

ががく
雅楽で用いられる実際の楽器が収められています。床の間側から龍笛・高麗笛・箏・篳篥・笙。

すみのえ
住之江の間

伝狩野山楽「浜松図」
かわづら よしお
川面義雄「浜松図」

えびこうりょう
海老虹梁

ぜんしゅう
禅宗建築で用いられるデザイン。

たてわくもん
立涌文欄間障子

縦の波のような模様は、板から切り出して作ったもの。

くろがき かまち
黒柿の框

柿の木でも「黒」になるのは珍しく、ましてやこれほどの大きな材、高級珍木です。

障壁画の見どころ

臨春閣は、壁や襖が狩野派を中心とした名だたる絵師による作品で彩られています。部屋ごとに異なる障壁画は、風格と華やぎのある空間を印象付けます。

※現在室内に収められているのはコロタイプ印刷による複製画です。本物は保存と安全のため三溪記念館に收藏されており、展示室で順番に展示しています。

見学に際しての諸注意

見学の際は清潔な靴下を	鞆などの持ち物は、必ず体の前に	大きな荷物はクロークに	メモは鉛筆で
見学は順路に沿って	鑑賞は離れて楽しもう	ゆっくり歩こう 座り込まないで	せっかくの鑑賞 自分の目で楽しんで
古い建物だから段差有り 足元には気を付けて	文化財をキレイに安全に		

くろうるしらでんろうかくじんぶつずとびら
黒漆螺鈿楼閣人物図屏

はくらい
舶来の品、三溪はこれを豊臣秀吉ゆかりの物と考えていたのかも。

まんじくず
円崩しの天井

さおぶち
棹縁天井を風車のように方向違いに組み合わせた大胆なデザイン。

なにわ
浪華の間

えいとく ろがんず
伝狩野永徳「芦雁図」

きんきしよが
琴棋書画の間

きんきしよがず
狩野探幽「琴棋書画図」

花鳥の間

たんゆう
狩野探幽「四季花鳥図」

しょうしょう
瀟湘の間

つねのぶ しょうしょうはつけいず
狩野常信「瀟湘八景図」

波の透かし彫り欄間

かつては銀等の色彩が施されていたとされますが、経年で黒ずんでしまっています。

鶴の間

ちかのぶ
狩野周信「鶴図」

菊・桐の欄間

す ほ らんま
菊の透かし彫り欄間に収められているのは浪華の景勝地の景色を詠った「浪華十詠」と呼ばれる和歌の色紙。

蓮の茎の戸

蓮の茎を利用した変わり種の戸。

発掘遺構 詳しくは裏面参照。

花鳥の間

瀟湘の間

第一屋

水屋

鶴の間

だいす 台子の間

見学順路

玄関棟

湯殿

大便所

脱衣室

小便所